

# 啄木が「石馬」と詠んだ 愛すべき狛犬

松の風夜昼ひびきぬ  
人訪はぬ山の祠の  
石馬の耳に

啄木



石川啄木がお気に入りだったといわれる天満宮の一对の狛犬。(写真は吽形の狛犬)

明治38年、上小路(現茶畑)に住む高畑源次郎により奉納されたといわれています。

この年5月、啄木は節子と結婚、6月から現在も残る帷子小路(現中央通)の家で新婚生活を送っており、その3週間後には市内加賀野積(かわら)町に転居していることから、ほど近くにある天満宮には幾度となく訪れたことでしょう。

他に見ることの無い愛嬌たっぷりの姿を初めて見た時、啄木はどんな想いを抱いたのでしょう。

今もなお、当時の面影を偲ばせる天満宮の境内で100年以上の時を越えて啄木に思いを馳せてみてはいかがですか。

夏木立中の社の石馬も  
汗する日なり  
君をゆめみむ

啄木

